



でぐち・はるあき ●1948年三重県生まれ。京都大学法学部卒業。1972年日本生命保険相互会社に入社、ロンドン現地法人社長、国際業務部長等を歴任。2005～06年東京大学総長室アドバイザー。2008年ライフネット生命保険株式会社創業、代表取締役社長に就任。2018年1月より現職。



荒波に挑むトップ
私の改革論
No.26
立命館アジア太平洋大学
(APU)
学長
出口 治明

「とがった個性」の学生が育つ とことん学べる大学へ

公正な競争原理の導入により、教育・研究と学生の学びを活性化

世界基準が求められる グローバル社会

今の日本の大学に必要なことは、学生が大学でもっと勉強するようにすること、これに尽きます。社会がグローバル化し、就職先もグローバル企業になると日本の学生は、世界中の学生と競争するよ

うになります。海外の学生は日本の学生よりはるかに勉強しています。アメリカの学生は1年間に100冊くらい本を読むと言われるほどです。両者が同じ土俵に立つたとき、どちらが厚遇されるかは自明のことです。このようにグローバル社会では、世界基準で競う必要があります。

しかし、これは学生側だけの問題ではありません。日本の社会における人材観が、いまだに高度成長期の「製造業の工場モデル」を引きずっていることにも原因があります。従順で協調性がある人材を求め、企業の採用面接では、クラブ活動やアルバイトでの活躍ぶりを高く評価する。これでは学生

が、勉強するはずがありません。今や日本ではサービス産業への就業者が3分の1以上を占めており、製造業のそれを大きく上回っています。サービス産業では、これまでになかった新しいビジネスを創り出せる人間が求められます。そのため大学は、社会常識を疑う力や、人のまねをせず、好きなことを徹底的に追求する力などを備えた、「とがった個性」を持つ学生を育てる必要があります。

公正な競争原理が 社会を活性化させる

実は、学生に勉強させることは、難しいことではありません。勉強をする環境をつくれればよいのです。その方法の一つが、企業での採用を成績重視に変えることです。グローバル企業はどこも大学での成績を重視します。自分が選んだ大学で4年間学び、優秀な成績を上げた人間は、自分が選んだ職場でもいいパフォーマンスを上げる蓋然性が高いと考えるからです。学生に人気のある企業が、「成績の悪い学生は採用しない」と明言すれば、たちまち学生は勉強するようになるでしょう。

も有効です。これは社会にも「一石五鳥」の効果をもたらします。

- ①生涯働き続けることで健康になり介護が不要になる
- ②もう一方から払う方にシフトするの
- ③で医療年金財政が好転する
- ④年齢に関係なく働くことで年功序列がなくなり、同一労働同一賃金の考え方が社会に浸透する
- ⑤その結果、少子化による日本の労働力不足も解消する、という5つの効果があるからです。とりわけ③は重要です。年齢に関わらず成果で評価されるようになれば、高収入を得るために学生の頃から勉強して、能力を高めようとするでしょう。

私は、将来的には大学にも同じ競争原理を導入すべきだと考えます。教員の場合、研究活動は第三者委員会をつくり、一定期間内の論文数や書籍数など客観的なデータをもとに評価する。一方、教育活動については学生評価や同僚評価など、360度評価を行う。このように、がんばっている教員をきちんと評価し、それに応じた処遇をするのです。公正な競争原理を導入することは、自発的に勉強する学生を育てるだけでなく、これからの日本の社会や大学をも活

性化させることでしょう。

「人・本・旅」で 学ぶきっかけを提供

学生を勉強にいきなうには「人・本・旅」が効果的です。多様な人々と交流することで刺激を受けますし、本も知的な刺激を与えてくれます。時間的・空間的に日常を離れる旅は、客観的に自分を見つめる機会となります。

APUは、「人」の面では非常に恵まれています。なぜなら、学生の半数が、約90の国・地域から来ている留学生だからです。ダイバーシティという点では、日本の大学の中では突出しており、しかも1回生は寮住まいなので、人も混ざる環境が整っています。

「本」と「旅」については学長就任後、学ぶ仕掛けづくりを行っています。「本」は、私が推薦する30冊の図書リストを作成し、今春の入学式で全学生に配布しました。この夏には、私が客員レビューアーを務める「おすすすめ本」の紹介サイトHONZのメンバーと学生の交流会を企画し、読書への入り口を増やすことを考えています。

「旅」については、日本人学生を対象に、短期、長期を問わず、

在学中に必ず1回は海外経験ができるようなシステムの構築を計画しています。

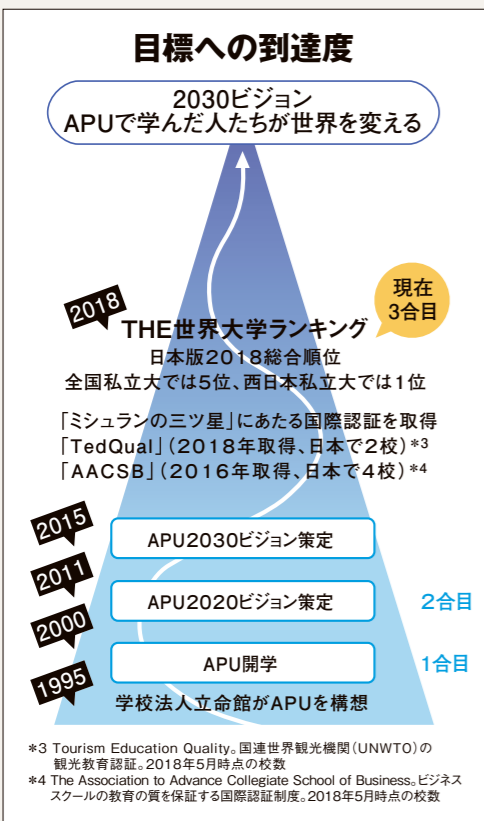
大学は10年先の 日本の先行指標

学生に「とがった個性」が求められるように、大学にも社会から当然同じことが求められます。APUは開学以来、国際性を前面に出した大学づくりを進めてきました。その「とがった個性」が、日本人学生の6割以上を九州以外から集め、THE世界大学ランキング日本版2018では、私学で5位、西日本の私学では1位という評価につながっています。

大学が自らの個性を磨くことは、財政基盤の強化にも効果があ

ります。APUでは、国際学生寮を活用した企業の社員研修「GCEP」を提供し、社会人の受け入れも積極的に行っています。国際学生寮で生活しながら経営学などを英語で学ぶこのプログラムは好評を得ています。

トップの役割は、大きな方針を立て、みんなに気持ちよく働いてもらうこと。その点で、企業と大学の経営に大きな違いはありません。ただ、大学は「日本の10年先の先行指標」です。より長期的な視点から考えることが大切です。「世界から見て大学が正しい方向に向かっているか」など、経営の点検に第三者の目を取り入れることは、国公私立の別に関わらず、これからの大学経営において重要な視点だと言えるでしょう。



*1 ノンフィクションのおすすめ本サイト URL:honz.jp
*2 社会で働く人材のグローバル化養成プログラム。Global Competency Enhancement Program